

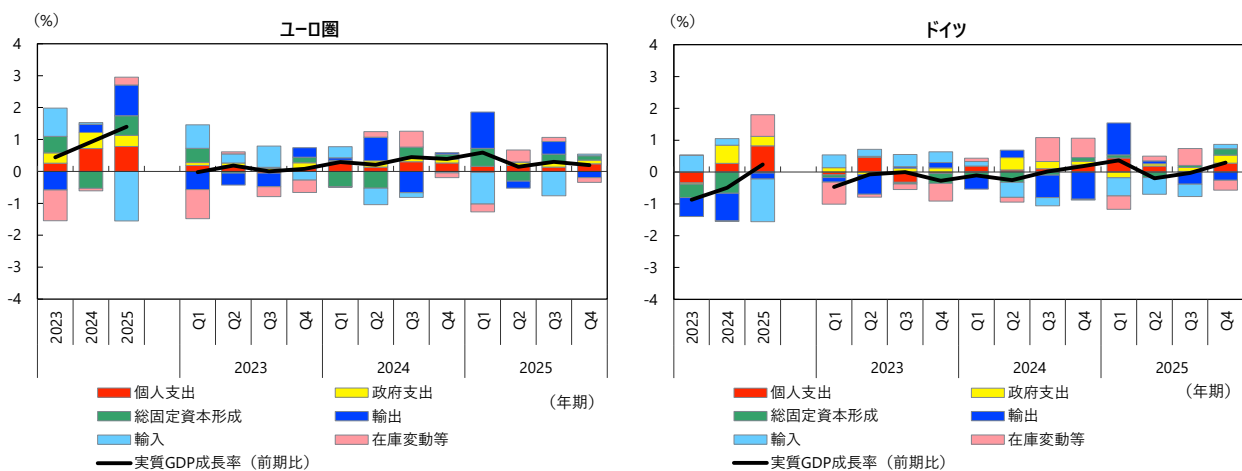
第2節 欧州経済

2025年のユーロ圏⁹⁴経済は、米国による関税政策の影響を受け、輸出の伸び悩みや企業の競争力低下などが、経済の下押し要因となったものの、安定した物価、堅調な雇用環境などに支えられ、個人消費などの内需が底堅さを保った。特にスペインなどの南欧諸国が好調で、全体を牽引した。ドイツ経済の不振は継続したが、復調の兆しも見える。英国は、主力のサービス業の伸びが鈍化し、経済が減速した。

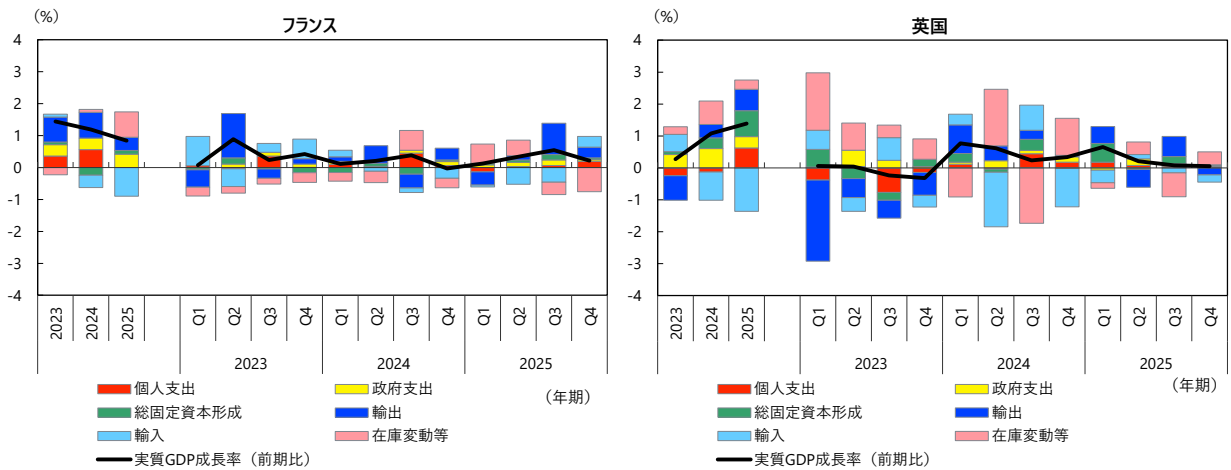
1. 実質 GDP 成長率

ユーロ圏の2025年通年の実質 GDP 成長率は+1.4%と前年の+0.9%から伸びが拡大した。四半期ベースでは、第1四半期は米国の関税措置を控えた駆け込み輸出で成長率が加速し、第2四半期ではその反動が出たが、第3四半期は観光などのサービス業を中心に内需が景気を支えた。第4四半期は第3四半期と比べると伸びがやや鈍化したが、堅調なペースで成長した。ドイツは低迷が続いていたが、2025年の第4四半期で前期比+0.3%と3四半期ぶりに成長率がプラスに転じ、通年でも+0.2%と3年ぶりのプラス成長となった。個人支出と政府支出が牽引した。英国は2025年の第1四半期は、米国の関税措置前の駆け込み輸出を背景に1年ぶりの高成長を記録したものの、個人消費の低迷などにより3四半期連続で伸びが減速した。通年では+1.4%だった（第2-1-2-1図）。

第2-1-2-1図 実質 GDP 成長率（需要項目別寄与度）



⁹⁴ 2026年1月からブルガリアがユーロを導入し、ユーロ圏は21か国。



備考：季節調整値。

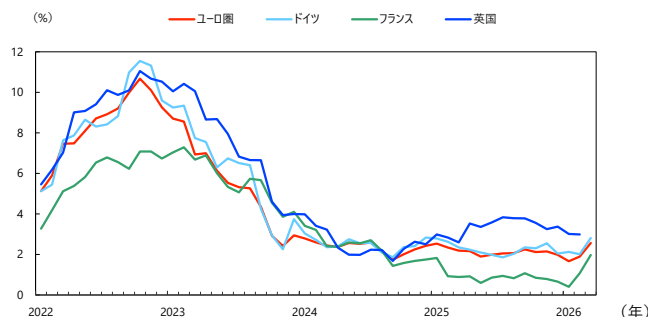
資料：Eurostat、英国国家統計局（ONS）、CEIC database から作成。

2. 消費者物価

ユーロ圏の消費者物価指数は、2025年の年間を通じて欧州中央銀行（ECB）の中期的な目標である2%の前後で推移した。インフレ懸念が減退したことを受けて、ECBは、2025年7月以降5会連続で政策金利の据置きを決定した。2026年2月の米国及びイスラエルによるイランへの攻撃を受け、同年3月の同指数は前年同月比+2.6%と前月の同+1.9%から伸び率が大幅に拡大し、2025年1月以来の高水準となった。エネルギー価格の高騰が総合指数を押し上げた。ECBは、2026年3月の理事会で、引き続き、政策金利の据置きを決定したが、声明文で、中東情勢がエネルギー価格の上昇を通じて、短期的なインフレ率に実質的な影響を与える見通しであることに言及し⁹⁵、インフレリスクへの懸念を表明した。

2025年の英国の消費者物価指数は、サービス価格の高止まりが続き、イングランド銀行（英中銀）の目標である2%を上回って推移した（第2-1-2-2図、第2-1-2-3図）。

第2-1-2-2図 消費者物価の推移

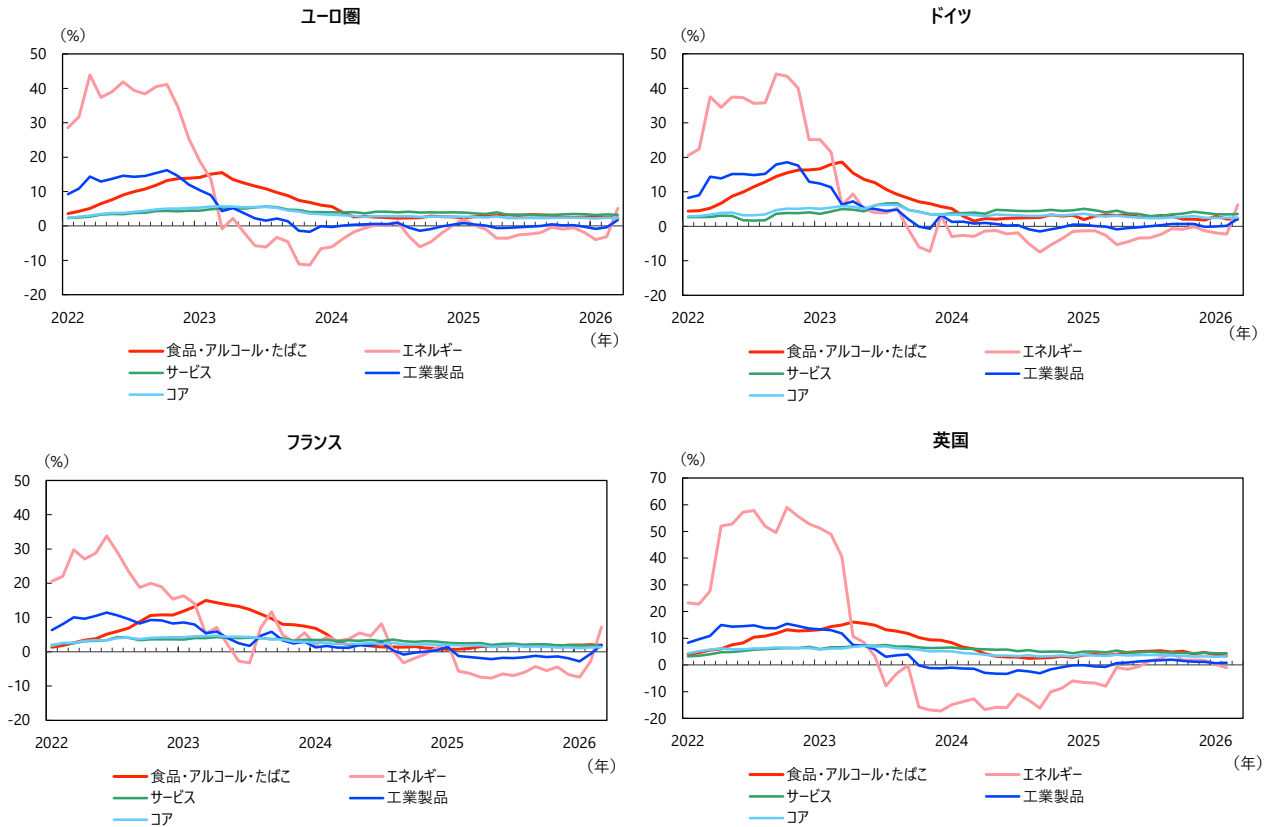


備考：季節調整値。英国は、2026年2月まで。

資料：Eurostat、英国国家統計局（ONS）、CEIC database から作成。

⁹⁵ ECB, *Monetary Policy Statement*, 2026/03/19, https://www.ecb.europa.eu/press/press_conference/monetary-policy-statement/2026/html/ecb.is260319~93b1cbad97.en.html. (Accessed 31 March 2026).

第2-1-2-3図 消費者物価（品目別）の推移

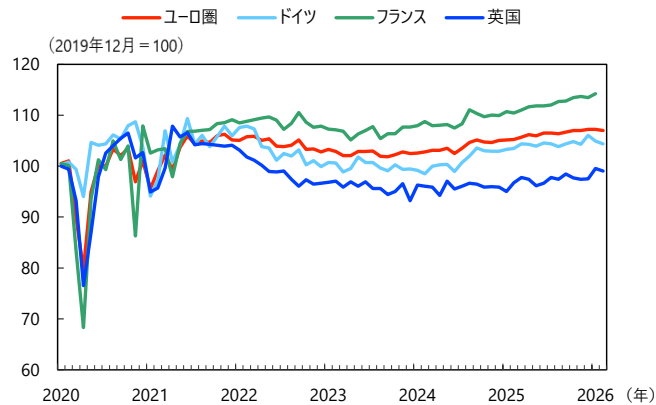


備考：季節調整値。英国は、2026年2月まで。コア指数は、食品、エネルギー、アルコール、たばこを除く。
資料：Eurostat、英国国家統計局（ONS）、CEIC database から作成。

3. 個人消費

ユーロ圏の2025年の小売売上高は、年間を通じて堅調に推移した。2026年に入り、1月は前月比で横ばいだったが、2月は食品・飲料・たばこの売上の減少に伴い、6か月ぶりのマイナスを記録した。また、英国の2025年の小売売上高は、低調な推移で力強さを欠いた。2026年に入り、1月は前月比で2024年5月以来の高い伸びを記録したが、2月は記録的な降雨等を受け、前月比マイナスに転じた。3月以降はイラン情勢に伴う原油価格の高騰等に伴い、消費が更に落ち込む懸念が高まっている（第2-1-2-4図）。

第2-1-2-4 図 小売売上高の推移

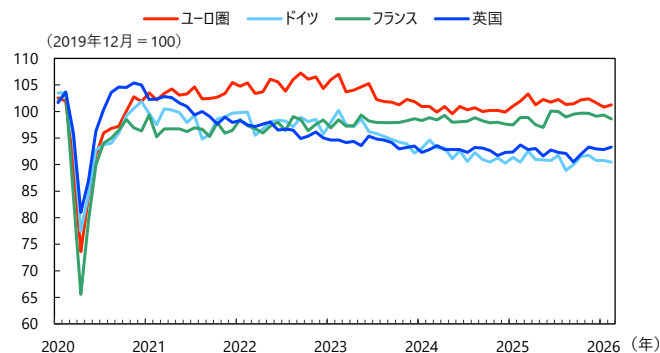


備考：季節調整値。数量指数。フランスは2026年1月まで、かつ自動車等除く。
資料：Eurostat、英国国家統計局（ONS）、CEIC database から作成。

4. 生産

ユーロ圏の2025年の鉱工業生産は、振れを伴いながら推移したが、均した動きは横ばいだった。ドイツの同年の鉱工業生産は、回復の兆しを見せた月もあるが、同年8月に2022年3月以来3年超ぶりの落ち込みを記録するなど、低迷が続いた。英国の同年の鉱工業生産は増加に転じた月もあったが、全体としては横ばいから縮小傾向で推移した（第2-1-2-5図）。

第2-1-2-5 図 鉱工業生産の推移

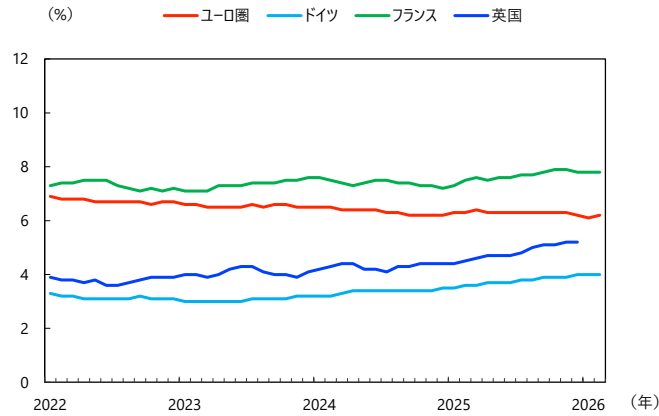


備考：季節調整値。
資料：Eurostat、英国国家統計局（ONS）、CEIC database から作成。

5. 雇用

ユーロ圏の2025年の失業率は、年間を通じて6%台前半と低水準で、安定して推移した。英国の失業率は、2024年半ば以降、増加傾向で推移し、雇用状況は悪化している。具体的には2025年8月には5%を超え、約5年ぶりの高水準で推移している（第2-1-2-6図）。

第2-1-2-6 図 失業率の推移



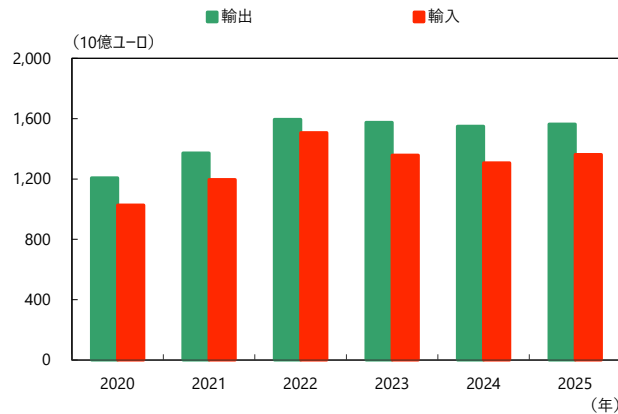
備考：季節調整値。ユーロ圏、ドイツ、フランスの失業率の年齢層は 15-74 歳。英国は 16 歳以上。
英国は、2025 年 12 月まで。
資料：Eurostat、英国国家統計局（ONS）、CEIC database から作成。

6. 貿易

(1) ドイツ

2025 年のドイツの貿易収支は、輸出総額が前年比+0.9%の 1 兆 5,640 億ユーロ、輸入総額が前年比+4.3%の 1 兆 3,620 億ユーロとなり、前年と比べ黒字幅が縮小した（第 2-1-2-7 図）。

第2-1-2-7 図 ドイツの財貿易の推移



備考：2025 年は速報値。
資料：ドイツ統計局から作成。

国・地域別の輸出入の合計では、中国からの輸入が増加する一方、米国への輸出が減少した結果、中国が前年比+2.1%の 2,518 億ユーロで、再び首位となった。2024 年に首位だった米国は、前年比-5.0%の 2,405 億ユーロで 2 位となった。3 位はオランダで、前年比+3.3%の 2,091 億ユーロだった。

最大の輸出相手国は米国で、2015 年以降の首位を 2025 年も維持したが、前年比-9.4%の 1,462 億ユーロだった。自動車関連の輸出が前年比-17.8%と大幅に減少した。同年の最大の輸入国は中国で、輸入額は前年比+8.8%の 1,706 億ユーロと同年の輸入の 12.5%を占

めた。データ処理装置・電気及び光学製品、電気機器、機械等の輸入が増加した。一方、中国への輸出は、前年比-9.7%の813億ユーロだった（第2-1-2-8表）⁹⁶。

第2-1-2-8表 ドイツの輸出入額（2025年、国・地域別）

（単位：100万ユーロ）

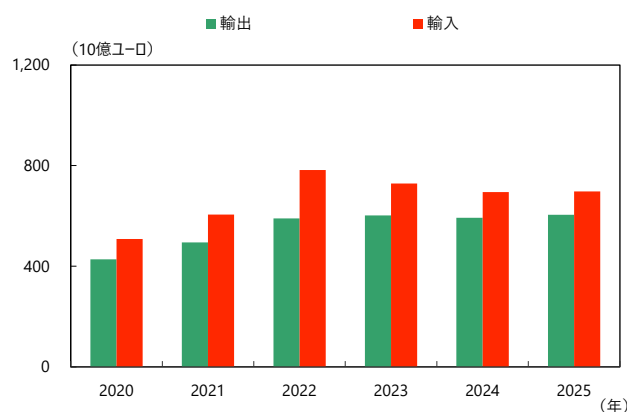
	国・地域	輸出額		国・地域	輸入額		国・地域	輸出入合計	
1	米国	146,204	9.4%	中国	170,593	12.5%	中国	251,845	8.6%
2	フランス	117,416	7.5%	オランダ	96,663	7.1%	米国	240,524	8.2%
3	オランダ	112,468	7.2%	米国	94,319	6.9%	オランダ	209,131	7.1%
4	ポーランド	99,904	6.4%	ポーランド	80,528	5.9%	フランス	186,408	6.4%
5	イタリア	83,545	5.3%	イタリア	72,469	5.3%	ポーランド	180,432	6.2%
6	中国	81,252	5.2%	フランス	68,992	5.1%	イタリア	156,014	5.3%
7	オーストリア	79,974	5.1%	チェコ共和国	62,237	4.6%	オーストリア	134,087	4.6%
8	英国	79,872	5.1%	スイス	55,513	4.1%	スイス	129,359	4.4%
9	スイス	73,846	4.7%	オーストリア	54,113	4.0%	英国	118,441	4.0%
10	スペイン	59,116	3.8%	ベルギー	47,295	3.5%	チェコ共和国	115,734	4.0%
	輸出総額	1,563,011	100.0%	輸入総額	1,362,507	100.0%	輸出入総額	2,925,519	100.0%

備考：上位10か国。速報値。
資料：ドイツ統計局から作成。

(2) フランス

2025年のフランスの貿易収支は、輸出総額が前年比+2.0%の6,042億ユーロで、輸入総額が前年比+0.4%の6,974億ユーロとなり、前年と比べ赤字幅が縮小した。エネルギー価格の高騰を背景に過去最高を記録した2022年以降、赤字幅は縮小傾向にある（第2-1-2-9図）。

第2-1-2-9図 フランスの財貿易の推移



資料：Eurostatから作成。

最大の輸出相手国は、前年に引き続きドイツで前年比+3.3%の増加だった。自動車⁹⁷の輸出が前年比-0.2%と減少したが、一般機械、医療用品等の輸出が増加した。米国への輸出は、前年比-0.9%の減少だった。同年の最大の輸入国は、輸出と同じくドイツで、輸入額は

⁹⁶ ドイツ統計局, *China is Germany's most important trading partner once again in 2025*, https://www.destatis.de/EN/Press/2026/02/PE26_056_51.html (Accessed 31 March 2026) .

⁹⁷ HS87類

前年比+0.5%の増加だった。自動車の輸入が前年比-9.3%と減少したが、医療用品などの輸入が増加した（第2-1-2-10表）。

第2-1-2-10表 フランスの輸出入額（2025年、国・地域別）

（単位：100万ユーロ）

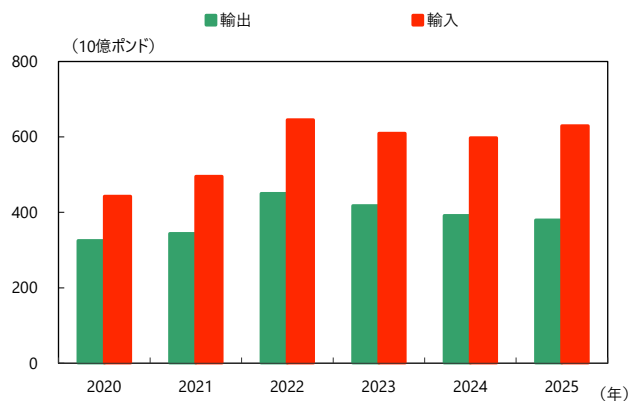
	国・地域	輸出額		国・地域	輸入額	
1	ドイツ	79,781	13.2%	ドイツ	107,581	15.4%
2	イタリア	47,529	7.9%	ベルギー	63,773	9.1%
3	米国	46,695	7.7%	オランダ	62,682	9.0%
4	ベルギー	44,958	7.4%	イタリア	57,786	8.3%
5	スペイン	44,898	7.4%	スペイン	52,533	7.5%
6	英国	38,261	6.3%	米国	47,891	6.9%
7	オランダ	23,727	3.9%	中国	45,938	6.6%
8	中国	23,483	3.9%	英国	24,919	3.6%
9	スイス	22,034	3.6%	ポーランド	17,682	2.5%
10	ポーランド	15,988	2.6%	スイス	17,681	2.5%
	輸出総額	604,154	100.0%	輸入総額	697,412	100.0%

資料：Eurostat から作成。

(3) 英国

2025年の英国の貿易収支は、輸出総額が前年比-3.0%の3,800億ポンドで、輸入総額が、前年比+5.4%の6,300億ポンドとなり、前年と比べ赤字幅が拡大した（第2-1-2-11図）。

第2-1-2-11図 英国の財貿易の推移



資料：英国国家統計局（ONS）から作成。

2025年の最大の輸出国は米国⁹⁸で、前年比-10.3%の592億ポンドと減少したが、同年の輸出総額の15.6%を占めた。また、自動車の輸出が前年比-28.1%と大幅に減少した。同年の最大の輸入国はドイツで、輸入額は前年比+1.7%の738億ポンドで、同年の輸入総額の11.7%を占めた。自動車の輸入が前年比+5.6%と増加した（第2-1-2-12表）。

⁹⁸ プエルトリコを含む。

第2-1-2-12表 英国の輸出入額（2025年、国・地域別）

（単位：100万ポンド）

	国・地域	輸出額		国・地域	輸入額	
1	米国（フェルトリコ含む）	59,226	15.6%	ドイツ	73,837	11.7%
2	ドイツ	33,734	8.9%	中国	69,676	11.1%
3	オランダ	27,352	7.2%	米国（フェルトリコ含む）	60,636	9.6%
4	アイルランド	25,374	6.7%	オランダ	50,965	8.1%
5	フランス	24,174	6.4%	フランス	36,486	5.8%
6	ベルギー	17,755	4.7%	ベルギー	30,702	4.9%
7	中国	16,794	4.4%	イタリア	23,925	3.8%
8	香港	10,636	2.8%	ノルウェー	23,250	3.7%
9	スペイン	10,332	2.7%	スペイン	22,853	3.6%
10	ポーランド	9,385	2.5%	アイルランド	18,947	3.0%
	輸出総額	379,764	100.0%	輸入総額	629,505	100.0%

資料：英国国家統計局（ONS）から作成。

7. 今後の見通し

第2-1-2-13表は、2010年からの欧州諸国の軍事費の対GDP比を示している。2022年2月のロシアによるウクライナ侵略など、欧州を取り巻く安全保障の変化を受けて、欧州諸国は軍事費の拡充に舵を切った。軍事費の増額は、関連産業の生産増や輸入増につながる。ストックホルム国際平和研究所（SIPRI）によると、2021年～2025年の欧州諸国による武器の輸入は、2016年～2020年比で3倍以上に拡大し、過去5年間の武器輸入で世界トップとなった⁹⁹。

第2-1-2-13表 欧州諸国の軍事費対GDP比

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	(年)
ドイツ	1.24%	1.18%	1.22%	1.16%	1.13%	1.12%	1.13%	1.13%	1.15%	1.24%	1.36%	1.30%	1.35%	1.49%	1.89%	
フランス	1.97%	1.89%	1.87%	1.85%	1.86%	1.87%	1.85%	1.85%	1.85%	1.85%	2.02%	1.98%	1.96%	1.95%	2.05%	
イタリア	1.49%	1.47%	1.42%	1.39%	1.28%	1.20%	1.33%	1.35%	1.35%	1.31%	1.73%	1.66%	1.65%	1.61%	1.61%	
スペイン	1.38%	1.33%	1.42%	1.27%	1.25%	1.26%	1.13%	1.22%	1.25%	1.22%	1.35%	1.34%	1.41%	1.47%	1.43%	
英国	2.57%	2.50%	2.42%	2.29%	2.18%	2.05%	1.98%	1.95%	1.94%	1.99%	2.16%	2.07%	2.06%	2.23%	2.28%	

（参考）

フィンランド	1.49%	1.49%	1.53%	1.54%	1.46%	1.46%	1.43%	1.36%	1.37%	1.36%	1.44%	1.30%	1.59%	2.01%	2.30%	
ポーランド	1.84%	1.79%	1.80%	1.79%	1.91%	2.13%	1.94%	1.89%	2.02%	1.95%	2.26%	2.22%	2.20%	3.27%	4.15%	
米国	4.90%	4.82%	4.46%	4.02%	3.68%	3.46%	3.40%	3.30%	3.30%	3.41%	3.65%	3.40%	3.31%	3.30%	3.42%	
ロシア	3.59%	3.43%	3.69%	3.85%	4.11%	4.87%	5.43%	4.25%	3.72%	3.86%	4.14%	3.58%	4.61%	5.40%	7.05%	
ウクライナ	2.74%	2.26%	2.35%	2.39%	2.97%	3.85%	3.67%	3.24%	3.64%	4.07%	4.40%	3.43%	25.64%	36.53%	34.48%	

資料：ストックホルム国際平和研究所（SIPRI）から作成。

今後の実質GDP成長率の見通しについては、第2-1-2-14表のとおりとなっている。2026年3月に発表されたECBのスタッフによる経済見通しでは、中東情勢の悪化を受けて、エネルギー価格の推移に応じた三つのシナリオが提示された。また、ユーロ圏の実質GDP

⁹⁹ SIPRI, *Global arms flows jump nearly 10 per cent as European demand soars*, 2026/03/09, <https://www.sipri.org/media/press-release/2026/global-arms-flows-jump-nearly-10-cent-european-demand-soars> (Accessed 31 March 2026) .

成長率の見通しは、2026年を中心に、前回（2025年12月）の見通しから下方修正された。同様に、同年4月に発表されたIMFの世界経済見通しでも、ユーロ圏の実質GDP成長率は2026年に1.1%、2027年に1.2%と、前回（2026年1月）の見通しからそれぞれ0.2%ポイント下方修正された。中東情勢の悪化により不確実性が増しており、見通しは著しく不透明となっている。

第2-1-2-14表 実質GDP成長率の見通し

(%)

	国・地域	2025年	2026年	2027年	備考
			<予測>	<予測>	
IMF	ユーロ圏	1.4	1.1	1.2	IMF「世界経済見通し」 (2026年4月)
	ドイツ	0.2	0.8	1.2	
	フランス	0.9	0.9	0.9	
	英国	1.3	0.8	1.3	
欧州委員会	ユーロ圏	1.3	1.2	1.4	欧州委員会 「2025年秋の経済見通し」
	ドイツ	0.2	1.2	1.2	
	フランス	0.7	0.9	1.1	
欧州中央銀行（ECB）	ユーロ圏（基本シナリオ）	1.5	0.9	1.3	欧州中央銀行（ECB） スタッフの経済見通し（2026年3月） (括弧書きは前回（2025年12月）の見通し)
		(1.4)	(1.2)	(1.4)	
	ユーロ圏（悪化シナリオ）	1.5	0.6	1.2	
	ユーロ圏（深刻シナリオ）	1.5	0.4	0.9	

資料：IMF「WEO」、欧州委員会、ECBの公表資料から作成。